

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人 萱垣会		
事業所名	中津川市グループホーム まごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835-204 (電話) 0573-69-5336		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人 常勤 10 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人		

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,600 円	その他の経費(月額)	30,600~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		830 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	名	要介護2		1 名	
要介護3	2 名	要介護4		3 名	
要介護5	3 名	要支援2		名	
年齢	平均 85.3 歳	最低 77 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵那病院	ウエダ歯科医院
---------	------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温もりとゆとりのある木造のホームでは、利用者が癒され、表情豊かな暮らし振りが見られた。職員と利用者が頬を寄せ手を取り合いながらのにこやかな会話、利用者同士の屈託の無い会話が交わされ、家庭的な雰囲気の中で、部屋に閉じこもらない動きのある生活が営まれている。地域との連携を重視した理念の下に、地元の関係機関・団体等との緊密な交流を行っている。また、職員の質の向上のため、法人内外の研修を積極的に受講し、認知症専門職としての利用者への対応が如実に具現されている。さらには、終末期の方針を明確にしており、職員の精神的不安の緩和に向けた学習も行われ、看取りに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目である職員の異動に伴い、職員間で力量のレベルの差が生じる課題には、理念の意義を十分に理解し、共有し、実践することで、質の向上を図っている。職員は、認知症関連の研修を多数受講しており、人材育成に積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者・職員全員で課題を取り上げ、改善に向けて成果を上げている。現状に満足することなく、更にサービスの質の水準を上げるために、自らに厳しい自己評価となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域の有力な役職者が多数参加して、2ヶ月毎に行われている。また、家族会と合同で開催する機会を設けることで、地域住民との関係が深まり、グループホームの理解者や直接的な施設環境の保守作業等の支援者が増えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は頻繁に訪問しており、意見・苦情には直ちに対策を取り、記録し、職員に周知する仕組みを作っている。また、家族会を年2回開催し、和やかな雰囲気の場面を設定しながら意見交換が行われている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
	<p>地域の老人クラブやボランティア団体との緊密な連携、幼稚園・小中高生との交流、研修生の受け入れ(福祉系高校生)、各種行事への参加等、地域に密着した取り組みがある。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寄り添い、見守り、共に生活する」という、新しい利用者本位の理念を掲げ、地域の中で利用者の暮らしを支えることを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員で理念を唱和し、共有を図り日々取り組んでいる。利用者の自由な行動を見守り、寄り添いながら表情豊かに楽しい笑いのある暮らしを支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々が気楽に訪問したり季節の野菜や果実等の差し入れが日常的にある。また、地元老人会や地元ボランティア団体とも連携しており、畑、草刈り、庭木の剪定、雪かき、各種の行事、花見の付き添い等、多方面で緊密な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果は、全職員で検討しながら、改善に向けた取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域福祉に理解と熱意のある人々で構成され、2ヵ月ごとに行われている。自己評価に基づく運営上の改善や地域防災の体制作りに活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者を交えた利用者サービス評価事業やケース研究会が開催されている。また、市が派遣する介護相談員を受け入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の通信に添えて、金銭出納帳、健康状態、暮らし振りなどを報告している。法人発行の広報紙では、職員の全員が写真入りで紹介されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織・開催されており、自由に意見を言ってもらえるように努めている。家族との連絡対応でしばしば行き違いがあるものの、話し合いで円満に解決している。また、意見・苦情記録も備えており、再発防止に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、半数の職員は定着しており、新任者には無理なく利用者と緩やかに馴染んでもらうために、管理者・先輩職員からの指導が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ計画的に受講し、職員の質の向上に取り組んでいる。認知症実践者研修、身体拘束廃止等多数の職員が受講している。また、法人内でも会議等で随時学習の機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2箇所の同業者と、利用者・家族を同伴して交流している。また、20事業者が参加する地域いきいきネットワークが、2ヶ月毎に開催され、意見交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と共に見学してもらい、入居者と直接会話してもらうように場面を設定している。その結果、利用者の一言で思いが通じ合い、本人から進んで入居の意思を示し、入居契約に至った事例を持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には、習字、短歌等の先生であった人もおり、作品に感動したり、喜び、学ぶ姿勢を示している。また、利用者仲間が発熱の時は、職員と一緒に熱を測ったり、タオルを掛けたり、気使っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の中には、毎年の敬老会に出席し、馴染みの人に会いたい思いを持って出かけている。また、以前所属していたサークルや文化活動等へ参加したいとの思いを把握している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人・家族の要望を取り入れながら、担当者会議で意見を集約し、利用者本位の計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状態に変化があれば、家族と話し合い、随時、計画の見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院・外泊への付き添い、移送の支援、車両による特別な外出支援を随時行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院へは、家族と職員が同伴し、受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期への取り組みについては、家族と同意書を交わしている。急性の医療対応が生じなければ、看取りを行う体制がある。職員には看取りに対する不安はないか、徹底的な話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導などには、さりげない言葉掛けに配慮している。名前の呼び方も、不快に感じている人もいたが、本人・家族から情報を得て、本人の気に入る呼び方に変えている。また、記録類は事務所で安全に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	廊下を絶えず言葉を交しながら行き来する人、家事を手伝う人、掘りごたつに入って表情豊かに会話する人等、部屋に閉じこもらず、自分のペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聴きながら、できるだけ献立に取り入れている。職員と一緒に盛り付け・片付けをして、ゆっくりなペースで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後の時間帯に入浴している。入浴に気の乗らない人には、無理強いせず、気長に声かけしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運動会、紅葉祭り等の地域行事への参加、幼稚園との交流、書道クラブ、絵画教室、朗読サークル、ヨガ、短歌会参加など盛り沢山の場を提供し、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺は景観もよく、樹木等自然環境に恵まれ、日常的に散歩している。また、随時、買物、ドライブの外出支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを原則として取り組んでいる。外出傾向のある人には、個別に職員が付き添い対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月昼夜、テーマ（火災・水害・停電・地震等）毎に避難訓練を実施している。また、併設の特別養護老人ホームと連携した地域防災協定を締結している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、好みなどを把握し、栄養バランスの取れた食事を提供している。また、水分は、1日5～6回に分け、水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間に、全員でくつろげる堀ごたつがあり、にぎやかな団欒の場所となっている。また、不快な音や光り、臭いも無く快適である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、小物類、写真アルバム、ぬいぐるみ、見やすいカレンダー、家族が飾った花などが、ほど良く配置され、居心地よく過ごすための工夫が見られる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。